



【発行所】 一般社団法人 儀礼文化学会
〒160-0012 東京都新宿区南元町 13-7
電話 03 (3355) 4188



開館 77 周年
明治記念館



木坂八幡宮（海神社）での八幡祭礼における放生儀礼

◎ 祭事スケッチ — 写真と文 松尾 恒一
「長崎県対馬市 木坂八幡宮の八幡祭礼と放生儀礼」
巻貝に託された
対外交流の記憶

対馬は、博多と朝鮮半島との中間の国境に浮かぶ島である。小島ではあるが、古代以来、朝鮮半島や中国大陸との往來の際の停泊地として重要な役割を果たしてきた。島では、厳原八幡神社や海神社の名でも知られる木坂八幡宮での八幡祭礼が行われる。八幡祭礼の例祭は（旧暦）八月十五日で、鶴丘八幡宮や石清水八幡宮はじめ全国の八幡宮や八幡神社で、この日や月遅れの九月十五日に例祭が行われる。

対馬の八幡神社・八幡宮では、古式にのっとり旧暦八月十五日に行われる神社が多いが、特徴的なのは、海浜で放生儀礼が行われることである。放生は、動物の殺生を禁じる仏教の教えに基づいて鳥獣を自然に放つ儀礼で、仏典に基づいて亀や魚、鳥の放生が行われるのが一般的である。

しかしながら、対馬の八幡では、ズキと呼ばれる五センチ前後の小さな巻貝が、官司によって海に放たれる。その由来は、神功皇后の三韓征伐、朝鮮半島への出兵の神話に基づき、ズキは討死した新羅兵の首であると言われ、敵兵の死霊の供養のために海に放たれると伝えられている。

浜の波打ち際に立った官司は海に背を向けて、三方に盛られたズキを後ろ手で肩越しに、海に投げ、海に放つといった特徴ある作法が行われる。その理由は伝えられていないが、戦死した敵兵の怨霊を鎮め、その祟りを避けるための作法であろうと考えられる。

日本と朝鮮半島との交流の歴史は少なくとも千五百年は超え、戦闘も行われてきた。古代の外国との交流の歴史、記憶が、国境の島において儀礼を通して伝えられているのである。

● 海神社の八幡祭礼

長崎県対馬市峰町木坂
木坂八幡宮（海神社）
祭日 旧暦八月 中・下旬



厳原八幡宮の祭礼において放生される巻貝「ズキ」